

## 熊本大学が研究拠点を設置して、中山間地域の研究を実施

### < 熊本県 >

市町村・集落の名称	芦北町 大岩地区
協働の相手（企業や大学等）の名称	国立大学法人 熊本大学
仲介者・コーディネーターの名称	国立大学法人 熊本大学政策創造研究教育センター
協働のポイント	全国的な少子高齢化によって集落崩壊が進む中山間地の振興について、 平成18年12月、芦北町と熊本大学が連携協定を締結。 1) 「中山間地域政策研究の拠点化」:わが国が直面する中山間地域の問題を考える場として旧大岩小学校を「政策研究推進室」として整備 2) 「地域コミュニティとの連携」:地域住民と大学・行政・都市住民等との連携を深める取り組み 3) 「教育への活用」:大学生の地域研究への活用
協働のきっかけ・経緯	芦北町は、熊本大学と共同で平成12年より過疎地における地域振興策を模索する研究を行ってきました。また、中山間地域振興の研究について連携を図る協定を結び、大岩地区生涯学習センター（旧大岩小学校）を熊本大学の研究施設の拠点として位置けています。このような状況を背景に、住民・行政・大学が一体となった新たな地域振興政策に取り組んでいます。
取組の具体的な内容	住民アンケートの実施 大岩地区むらづくり協議会の設立 地域住民向け講座:町内外の講師による中山間地の暮らしの豊かさ再発見の講座の開催 これまでの研究資料や中山間地域の振興政策のための課題に必要なデータの収集及びデータベース構築 EM菌の導入 地域のイベントの復活、活性化（地区運動会、夏祭り） 都市住民との交流
農村地域への効果	過疎化が進む大岩地域において、地域の問題をみんなで話す場が持てるようになり、地域住民で今後の問題を話しあう機会が増えた。地域の活性化が図られるようになった。
都市部の主体（企業や大学等）への効果	中山間地域の振興政策のための課題に要となるデータの収集及びデータベース構築ができる。
仲介者等の役割	アンケート、フォーラム等の企画・開催、その他、集落・町との連絡調整
今後の課題	住民・行政・大学が一体となった新たな地域活性化事業に取り組んでいますが、住民が、行政に頼らない自立した活動が出来るようにサポートが必要。
関連事業（国・都道府県等）	芦北町まちづくり支援事業（町単独事業）